

「 ぼくが、さいがいについておもったこと 」

宮崎県 国富町立本庄小学校 1年 井上 徠煌<sup>いのうえ らお</sup>

ぼくは、じしんがこわいです。なぜならばおおきくゆれるからです。ねているとき、おふろにはいっているときに、じしんがきたことがあります。そのときは、ちいさいもうとをまもろうとおもいました。

そして、なつやすみに、くまもとでおおあめがふりました。ぼくのじいじのいえがくまもとにあるので、とてもしんぱいでした。でも、なにもひがいがなくてあんしんしました。

おぼんに、くまもとにいてこうそくどうろが、どしゃくずれしていました。ひがいがおおきくならないように、おおきなつちのふくろがたくさんおいてありました。ふつかくらいで、みずがこないように、たいさくしてあってとてもおどろきました。うえのほうのやまをみたら、みずがちゃんととまっていてすごいとおもいました。

ぼくのばばも、どしゃでくずれたところをなおすおしごとをしています。ワッフルみたいなかたちをしていて、それをみるたびに、ばばのおしごとだなとおもいます。とてもたかいところから、ロープをさげて、おしごとをしているそうです。ぼくたちからは、そうぞうできないくらいこわくて、とてもたいへんなおしごとだとおもいます。ばばのほかにも、たくさんのひとたちがさいがいのたいさくにかかわるおしごとをしていて、すごいです。いつなにあるかわからない、しぜんさいがいは、こわいけどいましようがくいちねんせいのぼくができることがあるかもしれません。くずれているやまにはちかづかないこと。ふだんからいつなにがきても、だいじょうぶなようにひな人バッグをそろえておくこと。ちいさなことでもじゅんぴをしておくことがたいせつだとおもいます。

でも、なにもおこらないことがいちばんです。ぼくは、これからもそうねがってます。